

全国各地で活躍する 森林ボランティアのパイオニアたち

名栗さわらび隊 (埼玉県)

森林への思いをつなぐ
コーディネート機関として

今回取材した名栗さわらび隊は、東京都中央区に本部を置くNPO法人「地球緑化センター」の地方活動拠点のひとつです。

地球緑化センターが設立されたのは一九九三年（一九九九年に法人設立）。設立以来、緑のボランティアの育成に取組んでいます。個人やグループをはじめ行政、教育機関、企業などを対象に、一泊二日で行われる「週末森林ボランティア」、一年間山村に滞在する「緑のふるさと協力隊」、子どもへの環境教育といった、さまざまなプログラムを実施しています。国有林における「森林ボランティア」活動も先駆的に行ってきました。これらの活動から、各地域で活躍する森林ボランティアのリーダーたちが育っています。

「プログラムに何度も参加された方たちが、それぞれの地元を拠点にしてさらに積極的に活動するようになりました。皆さんがこれまでの活動で得た知識と経験をもとにリーダーシップをとってくださるのは本当にうれしいことです。こうして地元に着した森林ボランティアが根づいていくことを願っています」

と同団体の理事である新田均さん。地方拠点は十二団体を数え、それぞれがユニークな活動を展開しています。



お昼ご飯も山のなか。急斜面にへばりつきながら、楽しくおいしいお弁当です

瓦礫だらけの山に緑を呼ぶ 名栗さわらび隊の活動

名栗さわらび隊は、五年前から飯能市名栗地区（旧名栗村）において、手入れの遅れている私有林の再生に取り組んでいます。

「最初に藪だらけの山に入ったときは、どうなることかと不安な気持ちもありましたが、地球緑化センターのなかでも腕利きのメンバー二〇名が集まり、間伐、枝打ち、枯れ枝落としと地道な作業を続けてきました。三年目くらいから成果があらわれはじめて、豊かな緑が少しずつ戻ってきました」

とチームリーダーである、齋藤憲弘さんは語ります。



里山が急斜面だったこともあり、間伐材を利用して作業用の歩道を作設。それが間伐材利用の原点だと思っただからです、と齋藤さんは続けます。木の皮のむきかた、乾燥の方法などは地元で林業に従事していた高齢者たちにアドバイスを求め、交流を深めながら作業を進めました。

平成十九年に間伐推進中央協議会による「間伐・間伐材利用コンクール」にて全国林業改良普及会会長賞を受賞。大きな励みとなったそうです。今後は、間伐を利用した丸太小屋づくりも計画中。夢は広がります。

これまでの地道な活動で育まれた「緑のボランティアの種」は、それぞれの地域ですくすくと成長しているようです。

data

地球緑化センター
 東京都中央区八重洲 2 7 4 清水ビル 3F
 ☎03-3241-6450
<http://www.n-gec.org>
 名栗さわらび隊
 ☎03-3996-6609

上：間伐した丸太の皮むきにも、地元の人たちの知恵とアドバイスが活かされています
 中：メンバーの力を合わせて、作業用の歩道づくりに汗を流します
 下：それから3年後ほぼ同じ場所にて撮影。豊かな緑に覆われています。